

## 水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成26年12月4日
タイトル	農業体験の感想文が届きました！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

福山市立駅家西小学校5年生62名は、今年5月から粃蒔き、育苗、田植え、そして稲刈りを全て昔ながらの手作業で農業体験をしました。

5月には、学校で粃蒔きをし、園芸委員の子ども達を中心となり育苗をしました。そして、6月には福山市駅家町の水土里ネット福山の組合員の<sup>こだまあつし</sup>児玉敦之さんのほ場約600㎡で手作業で田植えをしました。10月には、立派に実った稲を手作業で刈り、はざ掛けをしました。全て昔ながらの手作業で体験した子ども達、殆どの子ども達にとって初めての農業体験で、町内会をはじめ地域の方の協力が欠かせないものとなっています。子ども達が収穫したお米は、1月に七草粥にして全校生徒に振舞われる予定です。

農業体験をした子ども達から、粃蒔きから稲刈りまでを振り返り、感想文が届きました。

### 「心に残った米作り」

岡田愛鈴さん

「お米作り楽しみだな。」私は、5年生になってお米作りをするのを心待ちにしていました。

最初の作業は、「もみまき」です。とっても小さいもみを土の上にまんべんなくおいてその上にまた、土をかぶせるという作業をしました。私は、こんな小さなもみがどれくらい大きくなるのかなぁと思いながら作業をしました。

そして、6月には、「田植え」をしました。田植えをするのは、初めての経験でした。だからドキドキしていました。田んぼの中は、ドロツとしていてヒルという人間の血をすう生き物もいました。いねを2、3本ずつ赤い玉のところに合わせて植えました。植えていると、足がぬけなくなったりもしました。思わずこけそうにもなったけど、一生けん命ふんばりました。地域の方々もいっしょに田植えをしてくださいました。私達が田植えをした田んぼは、児玉さんに借りました。田植えができるのは、地域の方のおかげなんだなぁと思いました。

最後、10月にいねかりをしました。田植えをした時よりずいぶん大きく育っていました。これも地域の方が育ててくださいました。いねかりも初めてでした。かる人と束を作って結ぶ人に分かれてしました。かる時には、自分の手を切らないように気をつけました。束ねるのは、バラバラにならないように気をつけました。

こんなよい経験ができたのは、地域の方のおかげなので、とても感謝しています。米作りは、大変だったのでこれからも、食べ物を大切にしていこうと思います。この米作りはとても心に残りよい思い出となりました。自分達で作ったお米を食べるのが楽しみです。

### 粃蒔きや育苗の様子



まんべんなく、丁寧に粃蒔き！



園芸委員が毎朝、水をやりました！

## 「貴重な米作り体験」

吉本朱希さん

今思い出すと、米作りの大変さや楽しさ、うれしさなど、いろんな思いがよみがえってきます。私は、今までの米作りで、特に感じたこと、心に残ったことは、三つあります。

まず、一つ目は、毎日の水やりです。私は園芸委員だったので、学校で育てたバケツイネを、毎日、毎日見ていたので、イネに愛着がわいていました。それに、少しずつ大きくなっていくイネがとてもかわいく見えました。

二つ目は、田植えです。あんなに小さかったイネが大きくなるのを想像すると、植える前からワクワクがとまりませんでした。それに、田植えも今までしたことがなく、同じくらいワクワクしていました。だけど、私の思いとは逆に、少しにおいのある田のどろに入るのは勇気がいりました。10から15分たつと、においも感触にもなれてすっすっと植えられるようになりました。

私は、いつのまにか「楽しいなあ、もっとしたいなあ」と言っていました。

三つ目は、やっぱり、イネかりです。

でも、私は手をけがして、できませんでした。けれど、カメラ係のレンズを通して、みんなが、よこれながらも一生けん命になって刈る姿を見て、カッコいいなあと思いました。

なんだか小さな映画が出来そうな感じがしました。帰って来たみんなは、草やどろが付いていて、なんだかつかれている様に見えました。だけど、同時にやりきったぞという顔にも見えました。そして、この米作りを学び、皆ひとまわりもふたまわりも心が成長したと思います。次は、お米を食べたいなあ。

待っています。私達のおいしいお米。

## 田植えや稲の育成状況の様子



地域の方と一緒に手植えをしたよ！



9月上旬には、こんなに立派に成長！

## 「稲刈り」

橋 憂乃さん

私達、五年生は10月に稲刈りをしました。

まず、地域の人に稲の刈り方を教えてもらってから稲を刈りました。初めは、なかなか稲が刈れなくて大変でした。でも、稲を刈っていくうちにコツをつかんで、かんたんに刈れるようになりました。地域の人が言っていたとおり、なれてきてザクッザクッと刈れたら、とっても気持ち良かったです。

次は、稲を束ねました。稲を刈る時は、すぐコツをつかめたけれど、束ねるのは束ね方が、ややこしいので、なかなかコツをつかむことができませんでした。でも、友達に束ね方をもう一度教えてもらったので、やっとコツをつかむことができました。強く結びすぎると、わらが切れてしまうし、ていねいに稲をまとめておかないと束ねる時に大変だったり、稲刈りは、とても大変なんだ、ということを感じました。今まで何も思わず食べていたお米には農家の人の苦労があったんだなと思いました。き重な体験ができて、うれしかったです。



束ねる藁を腰につけて、一人前です！



一本の稲穂も無駄にしないよう丁寧に収穫！

### 「稲刈り」

篠原優花さん

10月21日にやよいか丘の向こうにある田で、実った稲を刈りました。

田に行く途中では楽しそうだな。でも手作業で大変そうだなと思いました。

稲刈りする田に着いて説明を聞いたら、かまで稲を最初に刈る人と、刈った稲をわらでしぼる人に分かれて作業しました。刈った稲をふまないように稲のたばをよけて歩いてわらを受け取りました。ていねいにしぼって、わらがゆるまないようにしました。

次は、いよいよわたしたちが稲を刈る番です。かまをわたされたときに、上手にできるかなと思いました。と中から、まだ刈れていないところを手伝いに行きました。同じ所にずっといると地面がやわらかくなって、くつがどろだらけになりました。あまり刈った稲を同じ場所に積み続けるとわらでしぼりにくくなるので積みすぎた稲を、あまり積まれていないところに、そっと移しました。まだ、刈りきれずに残った稲をどろに落ちる前にかまで刈りました。

ずっと稲を刈っていると、うでや指がいたくなりました。約60人で活動しているのにはやく手がいたくなるということは、機械の無かった昔は、数人だけで大きな田の稲を刈り、米のお世話をするのは今の何倍も大変だったんだなと思いました。

昔からお米は食べられているので外国にも日本でもお米の大切さを広めたいなと思いました。そして、感謝して食べたいです。

田植えから稲刈りまでを振り返り4名の子ども達から感想文が届きました。みんな、農業体験が生き生きと書かれていて、農業体験をすることで感じた食べ物に対する感謝の気持ちや、農業の苦労や大切さを思う気持ちが伝わってきました。きっと、農業体験をした子ども達みんなが同じような気持ちになったことでしょう。

これからも、このような取り組みに水土里ネット福山として参加していきたいと考えております。